

「会い、合い、愛」

第31号（平成31年2月）

幼稚園の大きな行事の一つである生活発表会を終え、修了式・第3学期終業式まであとひと月となりました。保護者の方は“アンケートが続くな”とあっていらっしゃるのではないのでしょうか。

先日、幼稚園アンケートの結果をお渡ししました。春田幼稚園は「公立学校」ですので、園運営の1年を振り返り、その結果をお知らせしなければなりません。学校評議員会を開催し、評議員のみなさんにもアンケート結果を示してご意見をいただいたところです。よかったことは次年度以降にきちんと引き継ぎます。うまくいかなかったことは、なぜうまくいかなかったのかを①分析し②改善策の案を出して③案と共に次年度に引き継ぐ。私たちの先輩方がしてきたように、私たちも幼児教育の専門としての質を維持し、高める努力を続けたいと思います。おうちの方が、日々のことに大変お忙しい中を一つ一つのアンケートにととても丁寧に答えてくださることで、私たちは保育を振り返ることができます。答えてくださることに感謝しています。そして、年度末の一区切りまで、もう少し一緒に歩いていただけたらうれしいです。

今号では、生活発表会後の子どもたちの姿をお知らせします。運動会后同様、子どもたちは自然に学年を越えて触れ合って遊んでいます。（先生たちは連携しながら、生活発表会で一人一人の子どもが味わったいろいろな気持ちが、それで終わってしまうのではなく「学び」になっていくよう、触れ合える環境をつくっているのです）



つばめ組「ねこのおいしゃさん」の中で楽しかった場面で一緒に遊ぶうさぎ組さんたち。よく見ると、きりん組の子もいます。



きりん組「金のがちょう」くっついて離れなくなっちゃった！「ジャックと豆の木」チームだった子やつばめ組の子もいます。お姫様の衣装を貸してもらってうれしそう。

「会い、合い、愛」

第32号（平成31年3月）

先週金曜日、幼稚園でお別れ会が開かれました。主催者は、年中つばめ組の子どもたち。当日の朝、私が年中児一人一人にこっそり「今日はよろしくね」と声を掛けると、もれなく目をきらっと輝かせるのです。“任せておいてよ”“園長先生に言われなくても大丈夫！”とでも言いたいのでしょうね。Aちゃんのお母さんが「そうか。今日はつばめ組さんがやるんですね。それで（手を空に向かって突き上げながら）『今日は忙しいの。がんばるぞ』ってやっていたんですね」と、家を出る前のAちゃんの様子を教えてくださいました。

お別れ会当日の降園時に、お別れ会の様子を写した写真を掲示しました。少し重なる部分もありますが、紹介します。



写真①



写真②



写真③ 11人みんなで頑張ったよ

平仮名で「お わ か れ か い」の6文字を、先生と子どもたちで少しずつ書いて作った看板。

写真①

「この辺でいいかな、遠くからも見えるか確かめてみてくれる？」という先生。先生のすることをまねて、子どもたちも「ここでいい？」と友達に聞いています。

写真②

そのうちに、「私たちが貼る」と子どもたち。貼り方が分かり、高さをそろえようと注意しながら、精一杯背伸びしています。「その辺（でいいよ）。O.K.」「テープ、テープ」と、声を掛け合って作業を進めます。自然と「力を合わせる」ことをしているのです。先生は、「見て見て。みんなの力でこんなに素敵な飾りができたよ。きりん組さん、喜んでくれるかな」と、子どもたちのしたことに価値付けをし、翌日に期待をもてるような言葉掛けをします。

写真③

真ん中には、きりん組さんに向けた大きなお手紙。輪つなぎも11人でこんなに長く作りました。

写真④

きりん組さんにフラットファイルをプレゼント。紋きりをした紙を貼って模様にしました。「きりん組さんがにっこりしてくれた」とBちゃん。満足そうに担任の先生に伝えていました。

喜んでもらってうれしいと実感することで充実感を味わい、自立に向けた自信をつけていきます。



写真④

ずいぶん昔、私が年長組を担当していたときの3月のこと。学級のZ児が「先生、跳び箱出して」と急に言ってきた。「いいけど、どうして？」と尋ねると、「だって私、運動会の時は5段が跳べなかったでしょ。小学生になる前にできるようになりたい」と言う。“もうすぐ自分は幼稚園を修了し、小学生になる。小さい自分にさよならして一つ大きくなるんだ”という気迫みたいなものを感じ、跳び箱を出した。Z児は、あっという間に5段が跳べるようになり、確か「幼稚園の跳び箱は6段までであるから、6段も制覇する」と、覚えたばかりの「制覇」という言葉で、私に意気込みを伝えてきた。

と、こんな話を園児が降園した後の職員室でしたことがありました。それから何週も経った2月最後の週。担任が立てる指導計画の「週の反省」欄にこんなことが書いてありました。

C児が、先週からこま回しに興味をもち何度も挑戦したことで、何回か回せるようになった。また、雨が降った日、D児が跳び箱をしたいと言ったので遊戯室に出したところ、ほとんどの子が積極的に挑戦し、C児・D児が5段を跳べるようになった。E・F・G児は、秋に挑戦した時には“できないかもしれない”と思いながら取り組んでいたが、今回は“できるかもしれない、できるようになりたい”という思いをもって、進んで取り組んでいる気持ちが伝わってきた。(以下、省略)

小学生になるということは、子どもたちにとっても大きな節目であり、それを自覚しています。子どもたちの心身の機能は発達し、自分を客観的に振り返ることも随分できるようになってきている年齢です。大人が、ゆっくり時間をかけて思いを聞いていけば、子どもは“あの時はああだった”と振り返りますし、Z児のように“だから今はこうしたい、こうになりたい”と過去の自分と今の自分をつなぎ、自分で目標を立て、それに向けて取り組もうとする姿を見せるようになります。幼稚園の先生は、その意欲を支えます。こうして、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が育っていきます。

今のきりん組の子どもたちも同じです。こうになりたいと思って取り組む遊びは、子どもによって違ってよいのです。例えば、こま回しのCちゃん、跳び箱のDちゃんと、遊びは違いますが、その遊びを通して「自信をもって取り組もうとする」「試行錯誤しながらあきらめずに取り組む」などの姿が見られるようになってきています。このときのCちゃんは、こまが回せるようになったことで跳び箱にも取り組んでいます。“できないかもしれない”と消極的な始まりであった子どもたちが、運動会後もいろいろな遊びを通して自分の成長を感じ、“できるかもしれない”と自分を信じて取り組む姿を見せています。

年長組はこの金曜日に修了の日を迎えます。小学生になる子どもたち。初めての環境への不安もあって当たり前。不安と期待の両方の気持ちをもって、元気に学校の門をくぐってほしいと願っています。

年長組の保護者の皆様には、最後の園長だよりとなります。ありがとうございました。